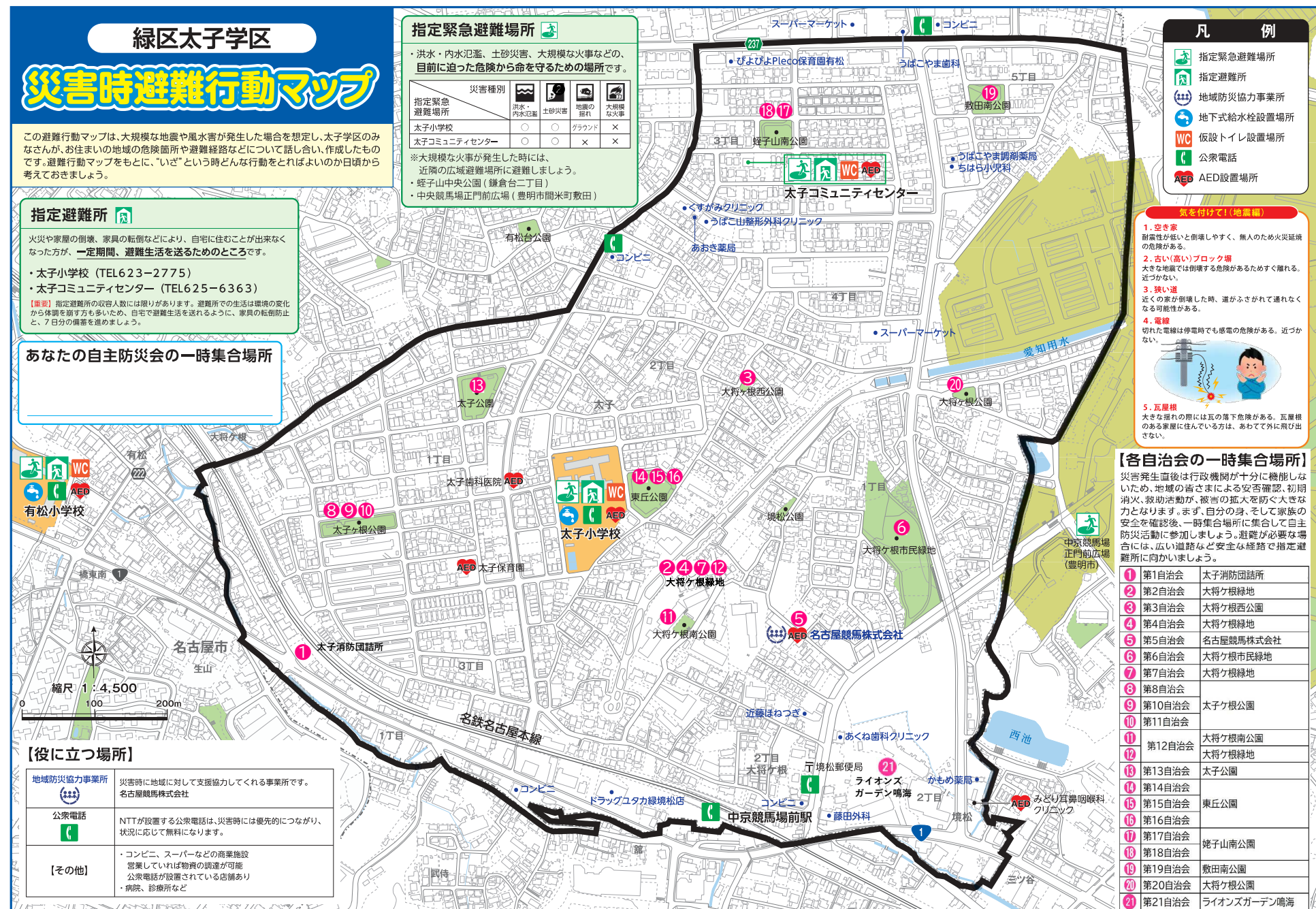




緑区

世帯：3,598 世帯
面積：0.997 km²

太子学区

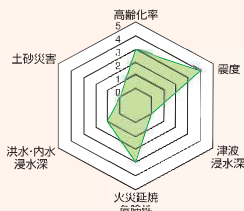
人口：8,071 人
(令和2年12月1日現在推計人口より)

太子学区では、南海トラフ巨大地震（あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震の場合）が発生した場合、学区のほとんどの地域で震度6弱、一部の地域では震度6強が想定されています。まずは、自分や家族の身を守るために、日頃から家具の転倒防止などの家庭の地震対策に努めましょう。また、液状化が発生した場合は、建物が傾いたり、路上に泥水が流れ出し、通ることができなくなることがあります。これらを踏まえ、適切な避難先とそこまでの安全な経路を考えておきましょう。

当学区には一戸建ての住宅が密集している地域があり、一度火災が発生すると広い範囲に燃え広がる可能性が高くなっています。日頃から火災を起こさないための対策をするとともに、大規模な火災の発生時に避難できる広域避難場所を確認しておきましょう。

リスクレイダーチャート

	値	5段階
高齢化率	24.6%	3
震度	6強	4
津波浸水深	0m	0
火災延焼危険性	500～1,000 棟未満	3
洪水・内水浸水深	0.5m 未満	1
土砂災害	警戒区域なし	0



お住いの地域のことを知っておくことは大切です。ハザードマップをはじめとした災害リスクや避難先のほか、地形、歴史、建物状況（密集状況や古いブロック塀など）及び防災活動状況等を確認し、家族や町内会、自治会で話し合うなど、日頃から防災、減災意識を高め、いざという時に備えましょう。

●参考資料として「地区防災カルテ」をご活用ください。

（名古屋市 地区防災カルテ）



火災から命を守るために「今」できること

●住宅用火災警報器を設置する。

寝室、寝室がある階の階段、台所に設置が必要です。火災を早く発見し、火災を未然に防ぐだけでなく、隣近所への燃え移りを防ぐこともできます。また、設置後の定期的な動作確認や交換期限までの買い替えを忘れないようにしましょう。



●住宅用消火器等を設置する。

小型で軽く、取り扱いが簡単な住宅用の消火器や、片手で素早く使えるスプレー式で、天ぷら油などの火災に威力を発揮するエアゾール式簡易消火具を備えておくといざという時に役立ちます。



●感震ブレーカーを設置する。

地震の揺れを感じると、自動的にブレーカーを落として電気を止める機器です。不在時やブレーカーを切って避難する余裕がない場合に電気火災を防止するために有効です。



一人ひとりの力を合わせて、大規模災害に立ち向かう!

◆まず、自分自身と家族の命を守ることが最優先です。その後、活動できる人は、隣近所、組、町内などで助け合う「自主防災組織」として、自主防災会長を中心に活動します。（安否確認、声かけなど）

◆災害の恐れがなくなった後も、避難生活は続きます。自宅（在宅避難）が一番ですが、自宅に戻れない場合は、「避難所管理組織」のもと、避難所で助け合って生活します。

◆「災害救助地区本部」は、区本部の補助機関であり、学区の被害や必要物資などを整理して区本部（区役所）に伝えるほか、様々な防災情報を学区の住民に伝達します。

基本的な避難行動



- ・避難先は固定されておらず、**どこへでも避難可能**です。（普段から避難先や危険箇所を確認しておきましょう。）
- ・地域で避難方法や安否確認など、ルールを決めている場合は留意しましょう。
- ・在宅避難の方も、指定避難所で避難者登録をすることで、食料などの支援が受けられます。

避難先へ安全に避難するための5つのポイント

①ガス・水道の元栓を締め、ブレーカーを切る!



②「一緒に逃げよう」近所への声かけ!



③高齢者や障害者などの避難誘導を!



④原則徒歩で!（渋滞抑止・高齢者や障害者などの避難を妨げない）



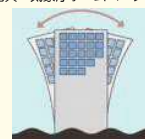
⑤木造住宅密集地、がけ地や川の近くは避けて!



マンションでの防災・減災

マンションは耐震性・耐火性のほか、保安面で優れていますが、大規模災害時には、長周期地震動による揺れ、火災延焼、エレベーター停止、断水等によるトイレの使用制限、住民の室内の様子が分かりにくい等マンション特有の懸念もあります。安心して生活するために、普段からの備えを進めましょう。

（例）出典：気象庁ホームページ



●高層建築物は、長周期地震動と共振して長時間、大きく揺れる。（家具の転倒防止。できない場合でも部屋に「ここだけは安全」という場所をつくる。）

●配水管が安全確認できるまでできるだけ水を使わない。（下層における汚水の逆流防止。簡易トイレ（便袋）などを活用）

●地域コミュニティとの良好な関係（日頃の挨拶・声掛け。熊本地震では地域と良好な関係を築いていたマンションに、地域の働きかけで支援物資が届いた事例がある）

学区の皆さまへ（ご協力をお願い）

- ◆建物の耐震、家具の転倒防止など、命を守るための安全対策を進めましょう。
- ◆自分と家族の安全を確認後、被害の拡大を防ぐため、積極的に自主防災活動に参加しましょう。
- ◆防災直後の安全行動や避難先までの経路などをあらかじめ家族間で話し合っておきましょう。